

インターバンクの声（2014年7月3日）

豪ドルやユーロ相場に、そこそこの変化が見られていた中で、やや蚊帳の外状態が続いていたドル円相場もようやく200日移動平均線のある101円70銭台の上まで浮上してきた。とは言っても昨晚のニューヨーク市場の朝に発表された6月のADP全米雇用統計で民間部門雇用者数が市場予想を大きく上回る28万人を超えたことが原因なので、今晚の雇用統計での非農業部門雇用者数の結果が期待外れとなれば、再び円を買い戻して元の木阿弥になる可能性もある。それにしてもここ最近発表される米経済指標の結果は悩ましいばかりで、景気の堅調さを示す内容と不安を感じさせる内容が混在しており、なかなか短期的なドルの方向性を見出すことが出来ない。昨晚のADP雇用統計結果から今晚の非農業部門雇用者数も20万人前後の予想に対し4～5万人程度の上乗せが期待できるとの声も出始めているが、中途半端な増加数になってしまうと、明日からの3連休を前にして大きなポジションを取らずに休暇入りとなるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。